

氏著書「華岡青洲先生その業績とひととなり」を訪れたとき入手。展示品、復元された建物を見学して医療現場の関係を確認した。

【結果】漢方薬麻酔の名は通仙散または麻沸散という。薬草は6種、蔓陀羅華、草烏頭、白芷、当归、川芎、南星炒である。術前の体力向上として人参栄養湯、回生散、生神散などを使用。乳癌手術第一例は1804年10月13日。以後156名の記録（全例手術ではない）。北海道以外全国各地から集まっている。乳癌以外に一般外科、脳外科、眼科、顔面、口腔、頸部、皮膚科、整形外科、泌尿器科、婦人科と広く行われていた。

【考察】漢方医学のみの時代に外科手術を成功させていた事実は驚異である。術前管理、術後管理も食事と漢方薬を用いて一貫した治療体系を確立していたものと考えられた。

## 7 新潟県における薬草について (2)

須永 隆夫

木戸クリニック

【緒言】新潟県の各地で生薬が生産されている。生薬生産の一部を報告し、かつて栽培され、野生化した佐渡おけら（ホソバオケラ）の分析結果と日常の利用法も報告する。国内での生薬生産と利用についても考えたい。

【方法、結果】生産者、保存会、薬用植物担当の町職員より聞き取り、現地見学とした。県の生薬生産担当部よりの資料を参考とした。県内の中間山地を中心に、イチョウ、シャクヤク、トウキ、ドクダミ、ヨモギ等が生産される。江戸時代に栽培された佐渡おけらは、現在、野生化したものもあり、保存されている。新潟薬科大学での分析結果、典型的な蒼朮（ホソバオケラ）のパターンを示した。佐渡おけらは、虫よけ、カビよけ、燻蒸、茶花などの利用がある。津南で栽培のホソバオケラは、生薬として流通していない。芍薬は一部切り花として利用される。

【まとめ、考察】新潟県における生薬のいくつかの現状を追った。稀少種生薬の佐渡おけらの保存と栽培が始まっているが、生薬の流通にのってい

ない。保存、そして国内での生産と利用が進めばと思う。

## Ⅱ. 特 別 講 演

### 1 困ったときは漢方で — カゼからガンまで

広瀬 滋之

愛知県広瀬クリニック

漢方薬は私たちの大変身近にあり、またその良さを知って普段の生活に生かすとともに役に立ちます。漢方医学は約2000年前に中国で生まれ、長い歴史と経験の中でそれぞれの国の伝統医学として重んじられ、中国では中医学、韓国では韓医学、日本では漢方（医学）として発展し、今では私たちの健康増進、難病の治療にずいぶん役立っています。約25年前から、漢方薬が健康保険にも採用され、一般の医療機関でも患者さんの希望に応じて漢方治療が受けられるようになりました。

さて、私のクリニックでは、カゼ、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、虚弱体質、自律神経失調症、慢性肝炎、膠原病、関節リウマチ、ガンといった、あらゆる病気の人が漢方治療のために大勢やってきます。ところで、漢方と現代医学の違いで最も大切なことは、現代医学が細菌やウィルス、ガン細胞などの外敵を倒すことを大きな目的とし、また血圧や不整脈をコントロールするのに大勢の人に同じような治療をするのに対し、漢方は一人一人の体質を見極めながら、それぞれの状況に合わせてメニューを考え、最終的には人間が本来持っている自然治癒力（ホメオスターシス）を十分に発揮できるようにパワーアップすることを目的とした医療です。今風の言葉で言えば、人間の構造改革をしながら健康を維持し、病気に打ち勝つ力を養うことを目的としているのが漢方医学なのです。

さて、カゼには葛根湯というように、誰でもカゼに漢方薬が効きそうなことはご存知のようですが、他にも多くの漢方薬のカゼ薬があります。ところが使い方をうまくすると、カゼには漢方薬が大変威力を発揮するのです。今回は、この辺りの

ことを含めて、それ以外の難病治療に漢方が意外な力を発揮していることを私の経験を踏まえてお話してみましよう。そして、漢方の医療が実はほんとうに身近な病気からとてつもなく難しい治療を必要とする難病にまで幅広く皆さんに役立てる、極めて実践的な医療であることを事例を示してお話してみます。

幸福の青い鳥は、まさにあなたのほんの身近な所にいるということを知っていただければこれ以上の喜びはありません。

## 2 症例に見る漢方薬理

### 適正な使用と服薬指導のために

田代 眞一

昭和薬科大学・病態科学教室

漢方薬の適正使用の基本が証の判断にあることはいうまでもない。ただ、臨床の間では、証が合っていると思うのにうまく効かないとか、嫌な作用が出てしまうといったことも少なからずある。それを、証の誤りと片付けてしまうのは簡単。でも、ちょっとした薬理の知識が、適正使用に役立つことがある。以下の症例について、一緒に考えてみたい。

〔症例1〕芍薬甘草湯が無効の月経痛：32歳の看護婦。実証で、腹壁の緊張を認めた。いつも激しい月経痛を訴え、ソセゴンを使うこともある。ただ、麻薬様の薬を使いたくないと、漢方治療を希望してきた。月経2日目に来たので、芍薬甘草湯1日6包を投与したが、効果は得られなかった。どう対処するか。根拠は何か。

〔症例2〕甘草製剤を中止したのに偽アルドステロン症が改善しなかった例：67歳の男性。肝機能障害で、6人部屋に入院。甘草含有処方としては、強力ネオミノファーゲンC2アンプルと小柴胡湯3包を投与していた。投与開始後約45日で低カリウム、血圧上昇などが出現し、上記処方を中止したが、一向に偽アルドステロン症の改善をみない。

〔症例3〕当帰芍薬散による下痢・腹痛：17歳の女子高校生。貧血を主訴として来院。当帰芍薬

散1日3包を投与したところ、夕刻から下痢と腹痛を訴え、夜間に再度来院した。

〔症例4〕 $\alpha$ グリコシダーゼ阻害剤による腹部膨満と大建中湯：糖尿病患者の男性(57歳)にベイスンを投与したところ、腹満や放屁が出現したので、大建中湯1日6包を投与したが、翌日から却って腹満や腹痛が増強し、苦しんでいる。

〔症例5〕小青龍湯による動悸・息切れ：手術室勤務の看護婦(27歳)が、アレルギー性鼻炎のために、季節になると清潔勤務が困難だという。そこで、小青龍湯1日3包を投与したところ、動悸や息切れを訴えた。

〔症例6〕牛車腎気丸による嚥下困難等：11年の慢性関節リウマチの既往を持つ糖尿病の女性(67歳)に牛車腎気丸1日3包を投与していたところ、エキス顆粒にむせやすくなったという。嚥下困難以外に、ろれつが回らないという症状も認められた。

〔症例7〕柴胡桂枝湯による発疹と痒み：米国から初来日した白人女性(63歳)が、2日目の朝、風邪気味だと訴えたため、宿の女将が常用している柴胡桂枝湯を1包与えたところ、10数分して全身に発疹とかゆみを生じた。漢方薬服用歴は全くないという。